

ヨハネによる福音書 7章 37～39 節

「ときに、ユダヤ人の仮庵祭が近づいていた」（7：2）との予告から始まった 7 章も節が進み、その祭りの最終日が今月の場面となりました。終わりのその日には、「祭りが最も盛大に祝われる」（37）とあります。さぞや多くの人々が集まり、賑やかで華やかな時となったことでしょう。

ところが、そのようにして祭りが盛大に祝われているそのとき、イエスがそのただ中で「立ち上がって 大声で言われた」（同）というのです。それは いったい、どんな状況の中でのことだったのか。そして、そこで言われたイエスのその言葉から、私たちは何を聴き取り、どんなメッセージを読み取ろうとするのか。

少しく場面の様子を見ながら、想いを膨らませてゆけたらと思います。

「祭りが最も盛大に祝われる終わりの日に・・・」（37）

- ・この「祭り」が「仮庵祭」と呼ばれるそれであったことは、上述の 7 章 2 節に記されているとおりです。
- ・ユダヤの 3 大祭の中でも最大のものです。
- ・それは、
 - ①旧約聖書の時代、イスラエルの民が奴隷のエジプトから脱出して 40 年の間、荒れ野を彷徨ったときのこと。彼らは仮の小屋を造り、そこに寝泊りしながらそうしたのです。その歴史を思い起こすのが仮庵祭です。
 - ②加えて、10 月の 15 日ごろに祭りがもたれたことから、秋の収穫感謝の意味合いをも持っていたといます。
- ・ということは、それは つまりは、何をどのような思いで記念する時だったのでしょうか。
- ・また、「最も盛大に祝われる」との有様から、その場のいかなる空気が想像されるか。さらには、そこに集った人たちの思いや心の内はどんなだったか。関心のあるところです。

仮庵祭の様子

- ・祭りの具体的な様子は次のとおりです。
- ・期間は 7 日間。
- ・「光」と「木の枝・葉」と、そして「水」が中心的な役割を果たしました。
 1. 「光」：何本もの枝の付いた 大きな蠟燭の台が幾つも用意され、そこに火が灯されました。その明るさは、エルサレムの家々を照らすほどだったと言われています。

それは いったい、何を象徴するものだったのでしょうか、
 2. 「木の枝・葉」：旧約聖書の規定に従い、「木の実、なつめやしの葉、茂った木の枝、川柳の枝」

(レビ 23:40) を手にして、毎日 神殿に詣でるといふものでした。人々はそれらを振り翳しながら 祭壇の周りを行進し、そして・・・、

それらをどうしたのでしょうか。また、それははたして、何を表わすものだったのでしょうか。

3. そして最後に、「水」です：祭りの間 毎日、祭司がシロアムの池（エルサレム神殿の南側に位置）から汲んできました。イエスが目の不自由な人を癒やされたという（ヨハネ）9章の出来事の舞台となった池で、水が自然に湧き出ている泉のような池だったと考えられています。

*溜まって澱むようなことがなく、流れているか湧き出しているかして綺麗に澄んだ水のことを、当時、「生きた水」（38）と呼んだ。泉のようなシロアムの池はこれにふさわしいもので、イエスがそれを意識して「生きた水」と言われたであろうことは容易に想像できる。

祭司はそうにして、黄金の桶でその水を汲み、神殿に戻って、祭壇にその水を注いだのでした。

それは再び、どんな出来事を記念するもので、何を象徴するものだったのでしょうか。

・仮庵祭はこうして 盛大に華やかに祝われ、祭りの間 中 笛やラッパや合唱が奏でられ、ダンスも踊られたといひます。

・そして、祭りで読まれた聖書の言葉の一つが、「あなたたちは喜びのうちに 救いの泉から水を汲む」との、旧約聖書イザヤ書のそれ（イザヤ 12:3）でした。

「(祭りが最も盛大に祝われる終わりの日に)

イエスは立ち上がって 大声で言われた」(37)

- ・ そのようにして祝われていた祭りの最中、しかも最も盛大なその終わりの日に、イエスが「立ち上がって」言われた、と聖書は記しています。
- ・ 人に何かを教えるとき、ユダヤの教師たちは、座ってそうするのが常でした。なのに、イエスは「立ち上がって」、
- ・ さらには「大声で」そうされた、というのです。
- ・ 祭りの最後の日には 人々の行進がいよいよ熱を帯び、祭壇の周囲を7回 回り巡りました。興奮が最高潮に達しています。そのとき、「立ち上げて」「大声で」・・・。
- ・ そこに、イエスのどんな姿が想像され、どんな思い・どんな心の内が見て取れるのでしょうか。
- ・ そして、それを聞く人々の心の様は？

「渴いている人はだれでも、わたしのところに来て 飲みなさい。

わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、

その人の内から 生きた水が川となって流れ出るようになる」(37、38)

- ・ そのようにして イエスが言われたのが、この言葉でした。
- ・ どこかで聞かれた覚えがないでしょうか。ヤコブの井戸の傍らで サマリアの女性に言われた言葉です（ヨハネ 4:14）。御参照を。

- ・それにしても、「渴いている人」(37)とはそもそも、どんな人なのでしょう？そして、それは自分と関わりが有るや無しや？
- ・「聖書に書いてあるとおり」(38)とはすなわち、旧約聖書のイザヤ書 58 章 11 節とエレミヤ書 31 章 12 節を意味しますが(御参照願います)、
- ・招きに応じて イエスのところに赴き、そしてその水を飲めば、(旧約) 聖書が言うように、「生きた水」(38) が川となって流れ出る、といえます。
- ・ならば、その「生きた水」は、①どこから、どうやって来るのか。そして、②どこに、どのように流れ出ていくのでしょうか。

①どこから、どうやって？

- ・「生きた水」(38) のことを指して、聖書は次のように記しています。「イエスは、御自分を信じる人々が受けようとしている “霊”、について言われたのである」(39)。すなわち、「生きた水」とは「霊」のことだ、と。私たちのよく知る表現で言えば、「聖霊」のことと言えるでしょう。
 - ・ですが、聖書は同時に、こうも付け加えています。「イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、“霊”がまだ降^{くだ}っていないからである」(同)
 - ・「栄光」とは、ヨハネ福音書においては、私たちのために十字架の上に死ぬことを意味しています。つまり、イエスはまだ、十字架上で 御自分を死に渡されておられない。そのようにして、御自身を捧^{ささ}げ、そして・・・してはおられない。
 - ・だから、「“霊”がまだ降^{くだ}っていないから」というわけですが、
 - ・要するに、全体を分かりやすく言い直すと、どんなふうになるでしょうか。
 - ・そして、そこから逆に読み取れる聖霊の約束とは？
 - ・また、それと「生きた水」(38) との関係は？
 - ・「生きた水」はつまりは、どこから、どうやって来るのでしょうか。
- *参照：ローマの信徒への手紙 8 章 14 節

②どこに、どのように？

- ・そしてそれは、どこに、どのように流れ出ていくのか。
 - ・残された このあと一つの間いについては、例えば、聖書の次のような箇所が参考になるのではないのでしょうか。
- *参照：ガラテヤの信徒への手紙 5 章 22～23 節、使徒言行録 20 章 35 節など。

.....

生きた水を頂くとは？

聖霊によって生かされるとは？

それは結局、どんな私たちへと導くのでしょうか。